

# 緑川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

○令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、緑川水系においても、干満差が日本一大きい有明海に注ぎ、広大な熊本平野を流下することで浸水被害発生時の影響が長期化するという流域の特性を踏まえ、高潮堤防整備や河道掘削などの事前防災対策を進めることで、国管理区間においては、戦後最大の昭和63年5月洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。





# 緑川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

○緑川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国・県・市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 県庁所在地である熊本市等の洪水被害軽減及び高潮対策として、歴史的な治水対策を保全しつつ流下能力が不足する支川加勢川の河道掘削等や本川下流部の高潮堤防整備（T.P.4.5m完了及びT.P.6.0m整備）を実施し、県管理区間においても、河道掘削や橋梁架替を実施する。併せて流域として、下水道等の排水施設の整備や治山設備の整備等を進めることで流域内の被害軽減を目指す。

【中期】 本川中流部の浸水被害を防ぐため、堤防整備や河道掘削を実施する。また、支川加勢川の河道掘削や本川下流部の高潮堤防整備（T.P.6.0m）の継続と併せて、ため池の改修等により被害の最小化を目指す。

【中長期】 本川上流部の浸水被害を防ぐため、堤防整備や河道掘削を実施することで、流域全体の治水安全度向上を図る。

○あわせて、ハザードマップや防災マップ、自主防災組織活動等のソフト対策を行う等、流域が一体となった防災・減災対策を推進する。

■河川対策（約246億円）  
 ■砂防対策（約15億円）  
 ■下水道対策（約50億円）

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備、橋梁架替、堰改築等	国土交通省 熊本県	支川加勢川河道掘削等 橋梁架替	本川中流部堤防整備 本川中流部河道掘削	本川上流部堤防整備 本川上流部河道掘削
	高潮堤防整備	国土交通省	TP4.5m対応 TP6.0m対応		
	土砂洪水氾濫対策	熊本県	砂防堰堤整備		
	流域の雨水貯留機能向上	熊本市、大津町、菊陽町、西原村、宇城市、嘉島町、益城町、御船町、甲佐町、山都町	調整池・校庭貯留施設の整備、既存調整池容量拡充 雨水貯留施設の設置補助、一定規模以上の開発行為に対する設置指導 農業水利施設の整備 ため池の補強・有効活用		
	支川等氾濫対策	熊本市、西原村、宇土市、宇城市、御船町、甲佐町、益城町	下水道等の排水施設の整備 排水ポンプ用差場整備、排水機場整備 中小河川の河道拡幅・橋梁架替・河床掘削等		
	森林の整備・保全 治山施設の整備	熊本県、熊本森林管理署 森林整備センター熊本水源林整備事務所、緑川流域会議	間伐等による森林の整備・保全、治山施設の整備・保全		
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	国土交通省、熊本市、甲佐町、美里町、益城町	防災ステーション、防災拠点等の整備・維持管理 土砂災害特別警戒区域からの移転促進、かけ地近接等危険住宅移転事業 災害危険区域の指定		
	歴史的な治水対策の保全	国土交通省	立地適正化計画の策定(防災指針の追加を含む) 舊塘等の保全		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	国土交通省、熊本県、菊陽町、西原村、宇土市、甲佐町	危機管理型水位計の設置 河川カメラの設置		
	避難体制等の強化	国土交通省、熊本県、熊本市、大津町、菊陽町、西原村、宇土市、宇城市、嘉島町、益城町、御船町、甲佐町、美里町、山都町、緑川流域会議	洪水・土砂災害、ため池ハザードマップの作成、防災マップづくり等 防災情報伝達の迅速化・多重化 防災教育、防災士の育成、自主防災組織の活動の推進等 災害時における流域連携による復興支援等の検討		
グリーンインフラの取組	治水対策における多自然川づくり	国土交通省			
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	国土交通省、甲佐町、宇土市	甲佐地区かわまちづくり、宇土走湯地区かわまちづくり		
	自然環境が有する多様な機能活用の取組み	国土交通省			

気候変動を踏まえた  
更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

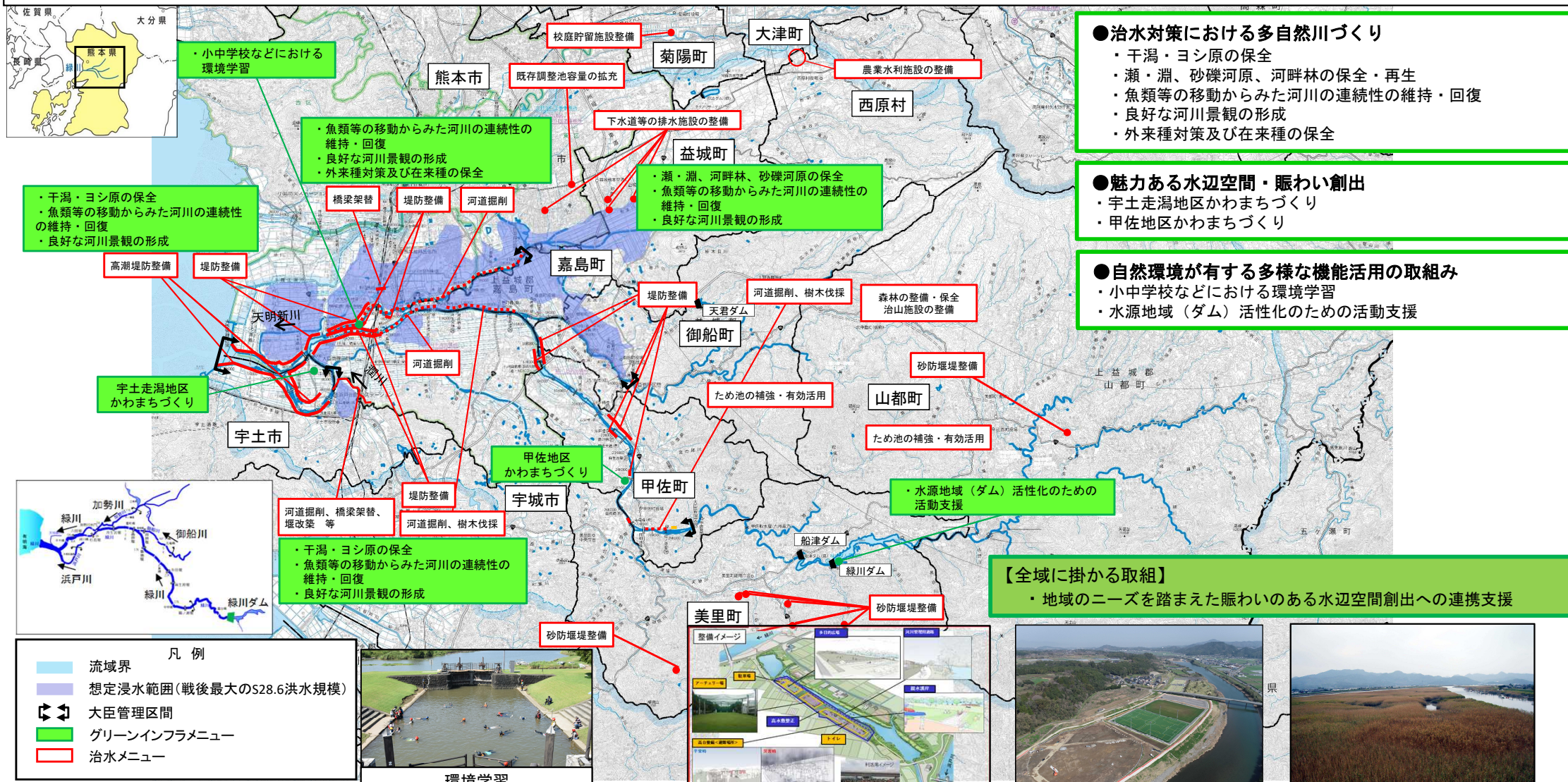


# 緑川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

## ●グリーンインフラの取り組み 『生態系の保全と再生と固有の文化・歴史に学び、良好な景観の保全』

- 緑川は、「日本の重要湿地500」に指定され、重要な生物が生息・生育する河口干潟、中流部に形成された良好な瀬や淵、加勢川におけるヒラモ、コウホネ等の希少な生物の生息・生育環境等、流域の至る所に多様な河川環境を有している。
- 宇土走潟地区は、周辺に文化財・史跡が残り、旧河道部にはヨシ等が繁茂する豊かな地域資源を有し、主要道路に近接し交通アクセスも良いことから、今後9年間で安心して水辺を利用できる環境、市境を越えた交流ができる賑わいのある水辺拠点を宇土走潟地区かわまちづくりにおいて宇土市と整備を行うことで、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。



**●治水対策における多自然川づくり**

- ・干潟・ヨシ原の保全
- ・瀬・淵、砂礫河原、河畔林の保全・再生
- ・魚類等の移動からみた河川の連続性の維持・回復
- ・良好な河川景観の形成
- ・外来種対策及び在来種の保全

**●魅力ある水辺空間・賑わい創出**

- ・宇土走潟地区かわまちづくり
- ・甲佐地区かわまちづくり

**●自然環境が有する多様な機能活用の取組み**

- ・小中学校などにおける環境学習
- ・水源地域（ダム）活性化のための活動支援

**【全域に掛かる取組】**

- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援

**凡例**

- 流域界
- 想定浸水範囲(戦後最大のS28.6洪水規模)
- 大臣管理区間
- グリーンインフラメニュー
- 治水メニュー



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

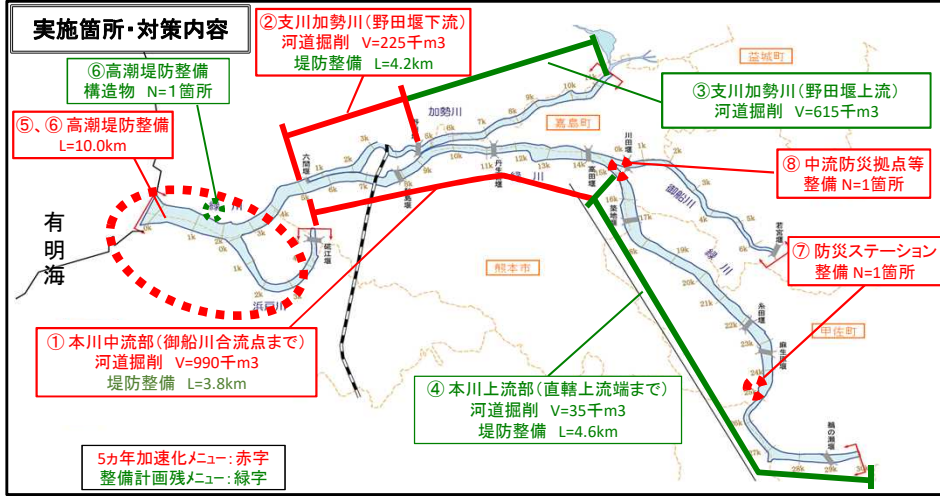


# 緑川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

短期整備(5か年加速化対策)効果 : 河川整備率 約48%→約63%

加勢川の野田堰下流までの河道掘削がR7に完了することで、全川1/20規模の洪水をHWL以下で流下させることが可能。  
高潮区間において、観測開始以来最大規模の高潮被害を被った昭和2年9月台風と同規模の高潮に対する堤防がR7に完了。

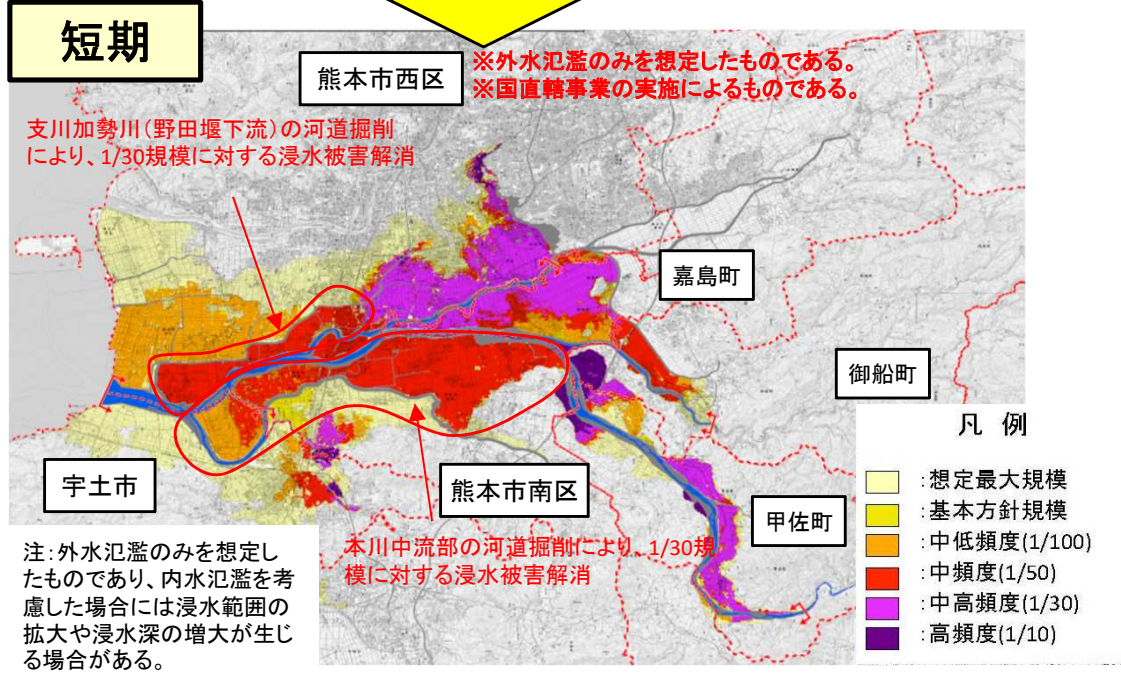
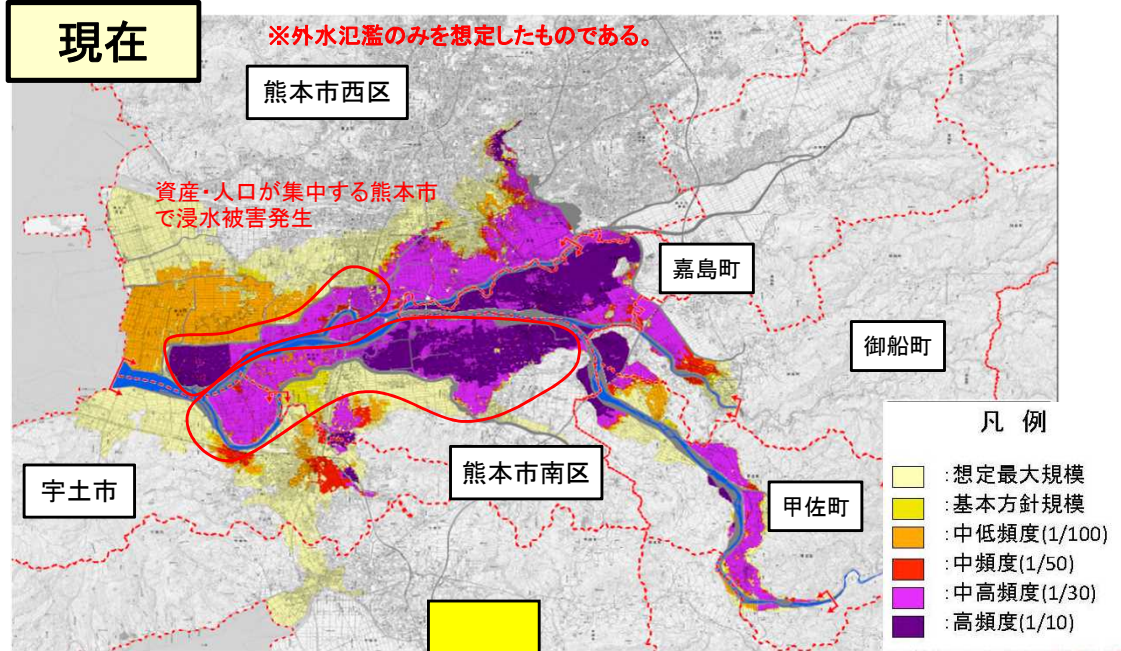


区分	区間	対策内容	工程	
			短期(令和3年度～令和7年度)	中長期(令和8年度～令和23年度)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	①本川中流部 御船川合流点まで	河道掘削、堤防整備	R3 河道掘削:100%	河道掘削:100%
	②支川加勢川 野田堰下流	河道掘削、堤防整備	河道掘削:100%	堤防整備:100%
	③支川加勢川 野田堰上流	河道掘削		100%
	④本川上流部 直轄上流端まで	河道掘削、堤防整備		100%
	⑤高潮区間 TP4.5m対応	高潮堤防整備	100%	
被害対象を減少させるための対策	⑦防災ステーション整備	河川防災関連施設整備	100%	
	⑧中流防災拠点等整備	河川防災関連施設整備	40%	100%
	⑥高潮区間 TP6.0m対応	高潮堤防整備	堤防:100%、構造物:0%	堤防:100%、構造物:100%
	⑥高潮区間 TP4.5m対応	高潮堤防整備	100%	

※スケジュールについては今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

【短期整備完了時の進捗】

- ①本川中流部(御船川合流点まで)河道掘削 0% → 100%
- ②支川加勢川(野田堰下流)河道掘削 0% → 100%
- ⑤高潮区間(TP4.5m対応)高潮堤防、構造物整備 0% → 100%
- ⑥高潮区間(TP6.0m対応)高潮堤防整備 0% → 100%
- ⑦防災ステーション整備 0% → 100%
- ⑧中流防災拠点等整備 0% → 40%





# 緑川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p><b>整備率：63%</b> (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p><b>2市町村</b> (令和4年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p><b>4施設</b> (令和3年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 <b>9箇所</b> (令和4年度実施分) 砂防関係施設の整備数 <b>4施設</b> (令和4年度完成分) ※施工中 2施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p><b>2市町村</b> (令和4年12月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 <b>55河川</b> (令和4年9月末時点) ※一部、令和4年9月末時点 内水浸水想定区域 <b>1団体</b> (令和4年9月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保計画 <b>1502施設</b> 土砂 <b>122施設</b> (令和4年9月末時点) 個別避難計画 <b>12市町村</b> (令和4年1月1日時点)</p>
---	--	---	--	---	--	---

**氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**

**【高潮堤防整備】(国土交通省)**



網津地区高潮堤防整備状況  
(緑川下流左岸：TP 6.0対応完)

緑川平木橋下流、浜戸川太郎兵衛橋下流の高潮区間において、平成11年9月の高潮規模に対応できるようT.P.4.50mの堤防整備を実施中。  
T.P.4.50m 堤防整備完了箇所より、既往最大規模のT.P.6.00mの堤防整備を実施中。

**被害対象を減少させるための対策**

**【災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫(船津地区防災ステーション整備)】(国土交通省・甲佐町)**




水防センター(甲佐町)  
船津地区防災ステーション(国土交通省)

緑川上流部における災害時の迅速かつ円滑な復旧活動を行うための防災拠点整備として、船津地区防災ステーション整備を実施中。  
甲佐町による水防活動を円滑に行う拠点となる水防センターを整備。

**被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**

**【災害時における流域連携による復興支援等の検討】(緑川流域会議)**



災害時における緑川流域連絡網(案)

「緑川流域会議」において、災害時に各自治体と各流域団体がお互いに必要な情報を共有し、円滑な災害復旧等に寄与することを目的として、「災害時における緑川流域連絡網(案)」を検討。